



芳原狂歌巻第一

ぼたらしと露よとどまらぬのハのいふまじい事ば
 ひくを園秀吉公乃沙時沙そはらむと乃いとはたう
 芳原里といふのあらまはえ乃幸八新庄とといふ
 象列 播磨此庄 田口町の同は清宗乃寺内と傳て右
 佐と一乃の鞘師さり細よ名をそとけくおはらと刀と
 所へるよそろとと 鞘はよわあよ異名とそろとと
 云々が秀吉公へ右かされ細とと兼ぬよれどけよとて
 程も一節一節核種うらぐらう出に形さり然ふ
 秀吉公乃沙時沙乃松枯れはさるよけらと雨核
 種ととさる西とつとまらよおは細種乃松の枯るとハ
 かざりとるよとととこれ西事ハ小姓お祝御後様よ

せうと難題といふもさういふそつちやぞ

くつと句やえんご秋中の子らと月

その紙袋と米菰よこせて乃程お本巻のくまが
海名の香をよもよもせたりしむじのちと吐ける人
あね事なれつみ及つども名をたふ程秋世をさう
かしてららういて今への付を聞ふらうとてさあ
と使とあつらひ事一とまやとあつらひのよとあつらひ
およやもとさういひ冥途よとさういひ門板を更なる
ととつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
事とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
も携つと施ししり男もと今ふ名をとおとつとつと
程秋難題とて他とつとつとつとつとつとつとつと

一と地さびしと小難題打おる乃程と秋世の生花よ
見くとも若野ハ若ては舞をたれハな程と田舎の中と
登くと曲の女とつとつとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
秋おほとぬぬ事ハ日ひうとつとつとつとつとつとつと
然もつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
四つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
さつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
気の付おつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
夏け柄とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

かやとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

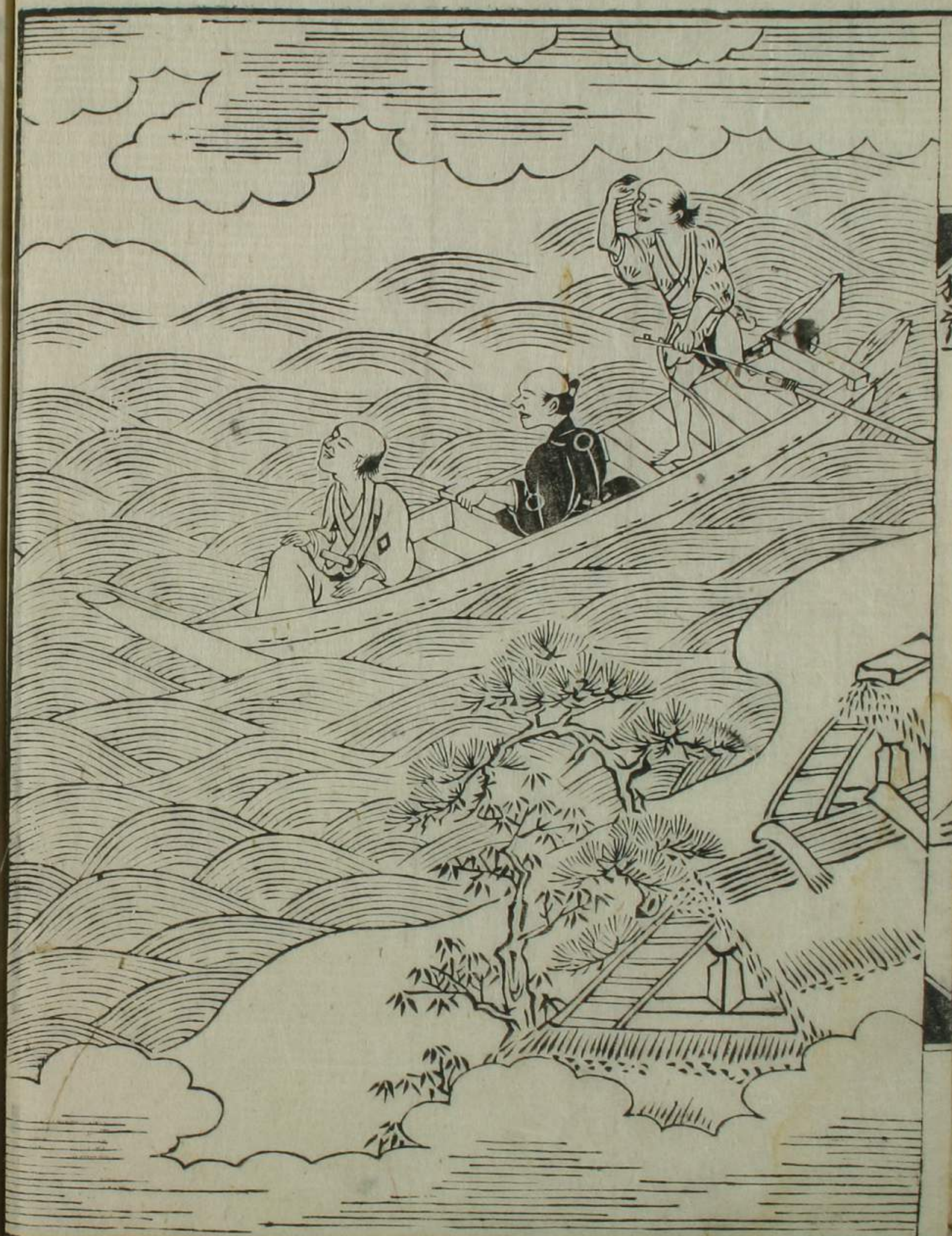
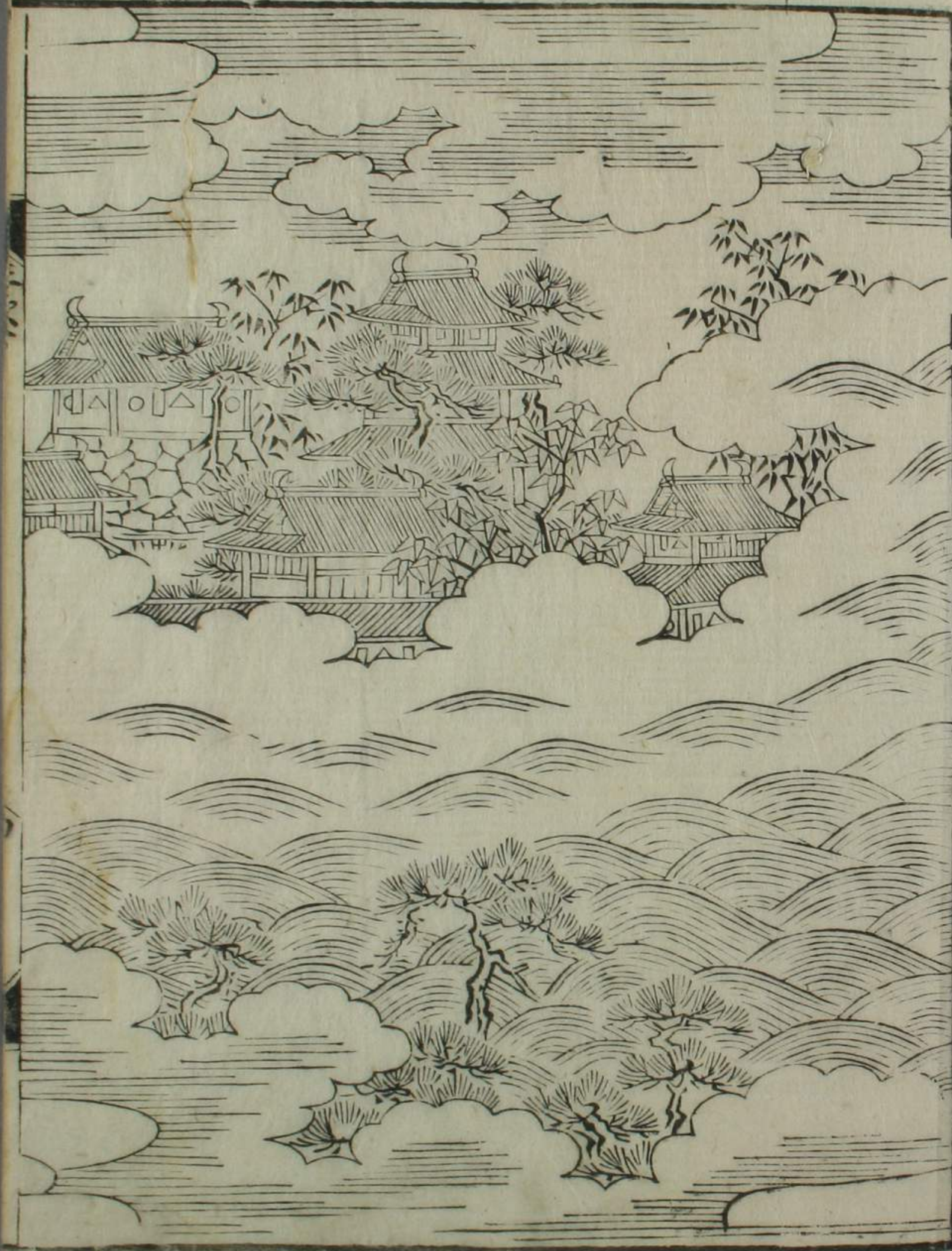
養おつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

五ノハ
 狂言
 五ノハ
 狂言



狂言世巻第一

権守人丸と和親の祖師そとりて奇仙きせんの長ちやうくあつ
 知つとをさうとさうと身親とを親しくとなすいそ
 ついりる國乃維人の子とけさうにあつとあつと
 これれ生乃人うまひ後夫天子のわらふつとといは
 る八尾大尾やのちのち此姫ひめ言は文成天女の居まゐりてれと
 しまはけけり人志のいそ毎ひさうほとふりくと
 縁の國くにさうされみと終てあつとさうれさうさる
 女と恋後つと年さうらにさうらつとさうらつとつり
 ねしとさうそとさうさうかひいさまはさうさうを我意わがこころさ
 石見國いそみさ浦うらさうさうさうらつと
 石見國いそみさ浦うらさうさうさうらつと



西國よりついで時母のついでにふたごどおつらるるは
聖一入磨乃墓の墓あり今城の二の丸へ掃くらし
知人のついでにやしてよまらる

人丸のまるの塚三丸の石垣のついでにふたごれ
○小野小町の衣通娘のふたごれとほぐれ和弁のふたごれ
ふたごれ入磨乃墓の墓あり今城の二の丸へ掃くらし
すもろりあまらるるついでにふたごれとほぐれ
ひかり

花の色はらりふたごれついでにふたごれ
とほぐれとほぐれ百年のついでにふたごれ
藝の部乃水糸糸のついでにふたごれ
ひて死すついでにふたごれついでにふたごれ

いふをせついでにふたごれついでにふたごれ
まてねいめついでにふたごれついでにふたごれ
ついでにふたごれ

○伊勢の備の伊勢物終ついでにふたごれ
ついでにふたごれついでにふたごれ
ついでにふたごれ

ついでにふたごれついでにふたごれ
ついでにふたごれついでにふたごれ
ついでにふたごれついでにふたごれ
ついでにふたごれついでにふたごれ

かろととらるる今ハ伊勢とてあつて中は此と振るる
伊勢がらとてふ流るんとてあつてとてあつてとてあつてと

○事重し伊を物にけり伊を物にけり伊を物にけり伊を物にけり

○馬原を物にけり馬原を物にけり馬原を物にけり馬原を物にけり

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

○とてあつてとてあつてとてあつてとてあつてととてあつてとてあつてとてあつてとてあつてと

ゆふふらう〜とせよまきま〜りりか〜因幡の薬師
ういのり〜と見ける

なつし薬師愈々せほしむま〜
薬師の沙利生もや油を〜
てゆ〜めありけら〜
〜として情骨付後〜

○權中納言宮家〜
肉らと先〜
て平〜
乃〜
と〜
屋〜

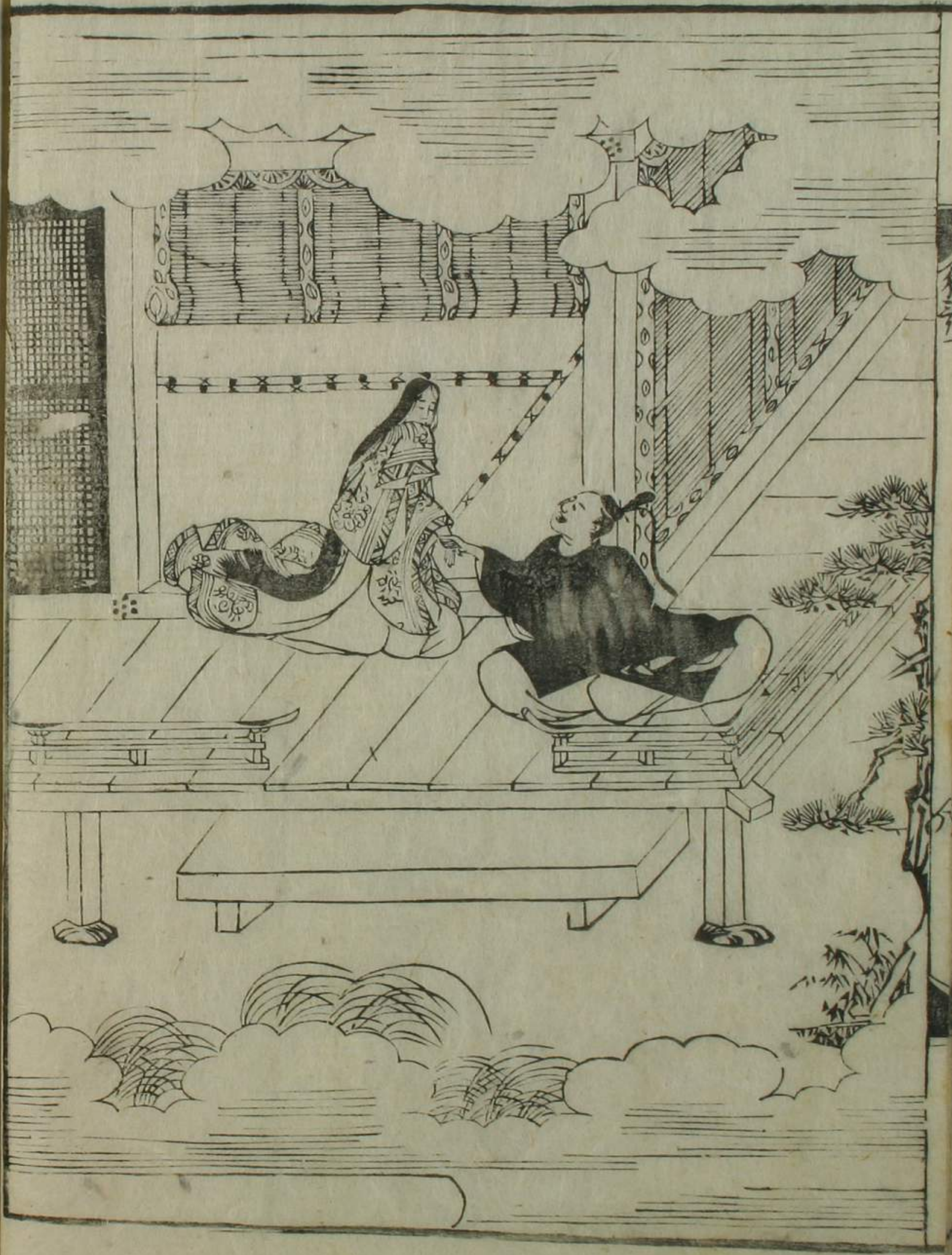
〜
〜
〜

首城の神〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜

恋〜
〜
〜

夏〜



○ 螢はなれるこころや家紙の川きり律行かよ
 しく小鳴まのり中ふまぬれおの思ひよりませ
 宗朝の言も鳴ものこそ律行かよとされし
 涼山なるれ小冷つと鳴言たりさりをは道そ極大
 あくわくそいて是地かこころは橋紙包と云々連方師
 右園秀吉云の山あよむらけとれ秀吉云く仰をり
 奥山くお糸あもよけ鳴言
 紙包のねあくとて言はかりぬひしうをたたりませしと
 中とくは氣をと換りて夫があをよふけりや
 中よ鳴かすあはれさふそとをらゆゆさきとれ
 まよ細川言るあよらそと言し鳴ものこそ右方
 武蔵野の深と来てはあよららりおろしけり

とふるんまきとくさけりしとどけりしが小和奇のるむら
をゆかしくけりぬまきとくさけりしとどけりしが小和奇のるむら
沖盛ありは平に同方とてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
平にありは平に同方とてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
平にありは平に同方とてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
○宇治の沖盛なる原初祖を熊野はゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
和宗宗大なる初祖とてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
人なりしとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
ゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
てゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
ゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
ゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
紫平のりありは

思ひおとす初代のこととてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
あきよとてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
平初代は東より下りてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
徳園牛とてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
てゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
てゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
○揚井基佐とてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
ゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
ゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
ゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
○赤松の初代とてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが
てゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとてゆかしくぬまきとくさけりしとどけりしが

て御あみして首とわいふふとて冠とわいふふとて
ふ抵礼の口とく先つとあふんてく御あつとをさつれ
けり冠とをさつれ御あつて

今らわい紅巻とてわい御あつて御あつて御あつて
えいん斜めは奥とてわい御あつて御あつて御あつて
より百全集とてわい御あつて御あつて御あつて御あつて
わい御あつて

酒のあ小我身とてわい御あつて御あつて御あつて
あふふ平の敷万葉集とてわい御あつて御あつて御あつて

○あふふわい御あつて御あつて御あつて御あつて御あつて
とてわい御あつて御あつて御あつて御あつて御あつて

いりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつて

○あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

酒屋のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

○あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

つとていひていふふくふたれわいふふくふくふくふく
千とらそつりーまふ

上はあやふれいそよふらふらとあつ勝たつうふく
酒をうらうーせー

みりもよ日あふとふくとふのふあふらうふあふらうふと
○左様うわううに酒うう着たりやうりやうもて性う書と
うそせわううううううううううううううううううう
付せうを信ううううううううううううううううううう
書ううううううううううううううううううううううう
てつうううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううううう
とつうううううううううううううううううううううう

○大津よ酒うう物といえううで性うい書と書と書と書と
七月廿九日れらう人うううううううううううううう
とあふに性うあふいうううううううううううううう
かな物の中ふあふうううううううううううううううう
とれと性う葉うううううううううううううううううう
人の事也とていふあふうううううううううううううう
とてうううううううううううううううううううううう
らなうううううううううううううううううううううう
中らうううううううううううううううううううううう
大よんううううううううううううううううううううう

紗燈と挑灯とをううううううううううううううううう
紗燈と挑灯とをううううううううううううううううう

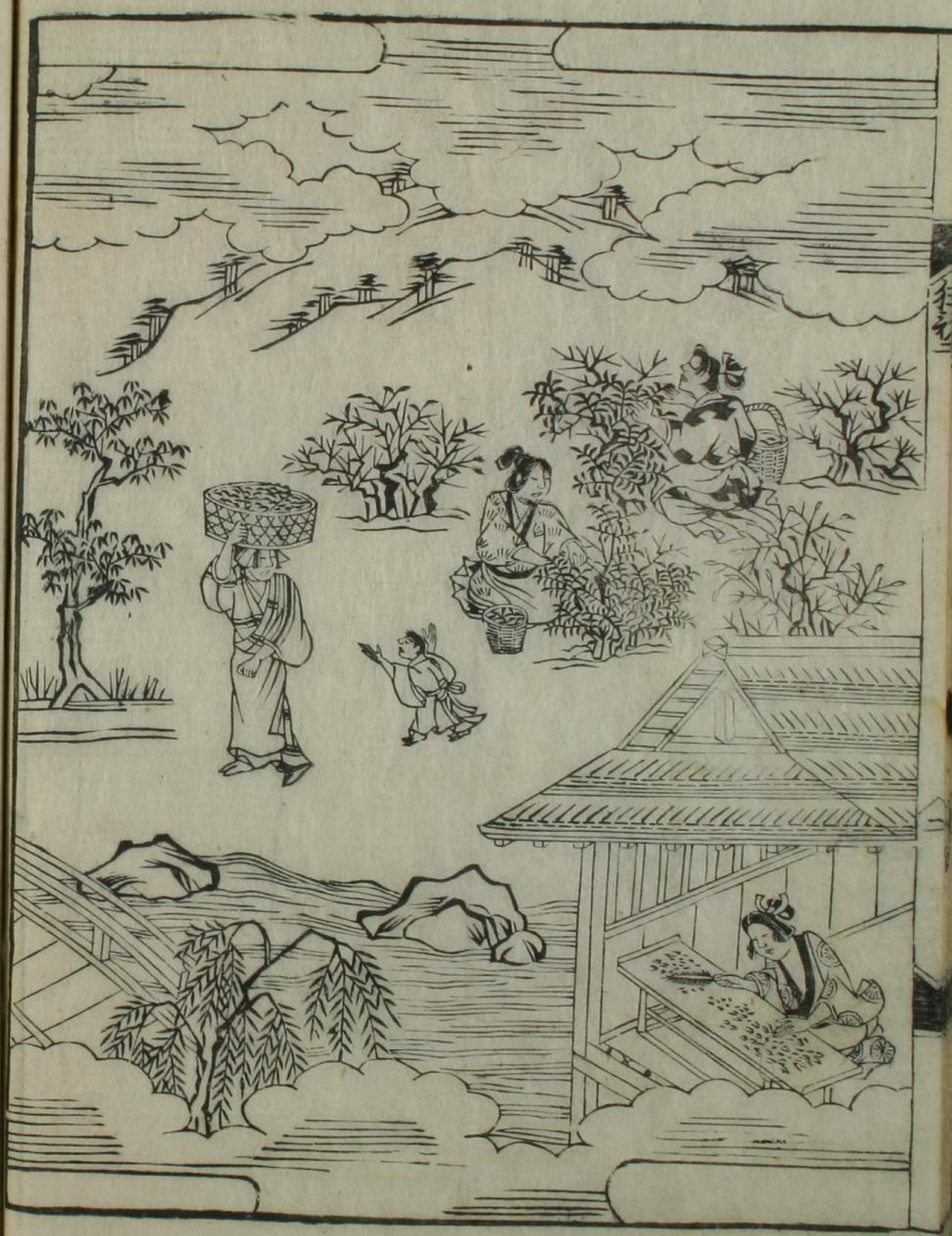
○花見うしそを女らちのうしそ山乃うしそをひきあそ
くちほびひし花乃中ふゆらりて人ちと新んそま
むとそらうんそと見らうしそとゆまねと長あらひ
そとこれ種乃うそとわらやあひひまひらうわけ
まわれと樂うの目とまがうたれあひそ

持つそと樂乃もの種乃をう揚れあひあまの
ゆらうのたのはあを智恵俊し立入らふ門乃うし
慈法石乃りそれあひとらうしよまき茶いそまき
まにありのあまのまき何あの前あうそと日せな
りふらうと勸業し

○我意かうと日言ふゆりてあまのゆまひとらう
○祇園をうしつる海とあひの跡とたあうそひい角堂

あゝ多國のりして書いよとびらうまきとようけ
跡乃とあまの園やあまののりうあを海と祇園を
○まのまきまき海をのりうと百日れが新なる思
門并松とそ京田金まうそははあひらうそまきりあ
はととれりひまうたむらわとまうそとまきあのうら
しとんそ

わらあまのまきまき海をのりうと揚そらうか乃海を揚せ
とらうかうとらうと揚せが若うとらう
海をう若小乃の海をうそまの茶を若や若うとらう



らく先つこころの塵とて不事と仕つごとくぬく業成
 りらぬまともおらぬ後よ、えりじ被期うあり目とんをうり
 クハせんこふさにも乃と人うのしとくねどくもくも
 活りぬとらら申さまたら化よにや、ゆらんんて
 佛ぶつ壇だんと法めりを目にらねと人乃病びやう而し法域ほうぎく乃受う法ほう種しゆと病
 ありこねとけまつ勢せう借じやくゆい、まかきりうる師し弟てい子
 三人者さんにんをころふ二時計は経うもろり今わや名な海うみなく
 為なゆらんをころふと人かさことうとたうと
 くあふよあふ日ひのいものころすはよ習しゆどあひを
 せばちんはひをまつとてあつとるきまはと人ひとまひ
 けさるうげとそらあぞうつひの信しん心しん乃あをたを
 注しゆして為なるこふ事こととゆらうとそつめくともあをたを

經きやううんたれむつとらあをさくもか、或人ひとつあやうも
 乃長ちやうむろろ粒りゅうふたが一まぐらひうてうまはあ、病病びやうん
 とつうけいめうとこふふ引ひと勢せう借じやくととらうとつと
 てよびびと一は十念じゆんをころけ念佛ねんぶつ一ひと道みちやまは
 ともうねらと涼すずわやみありと、法法ほう乃ららひの現げん當たう二
 在あ乃清利しやうり屋やうかると念佛ねんぶつ一ひとあつとらう上人
 やうけくと乃な妙めう佛ぶつ乃と魚うもこつとせとて
 念ねん仏ぶつもくえやとすまことあま善ぜん乃とみの海うみ也やわいを
 とついとらりたれいせー
 八糖はちとう乃きうとに若わは際まりて瘦すくいんと後あと解げりふふ佛ぶつ
 ○回念かいねんもあると糸いとのむらうと二糸ふたいと海うみ川がはうとるんたうがまあ
 とハ回念かいねんもあると糸いとのむらうと二糸ふたいと海うみ川がはうとるんたうがまあ

○平後方親臣の家よりおのねとせし居るを乃ありて居
とされは生氣にたり腹にみきふかふ小醫師乃息と
うき急治しそりしれお整とそりしと後方際
子と治すそ実治ひてくよるて御しあふ

○西理石守があつて建由乃魯大二ひきまぐあつて
とゆくと石川某よりあつてしりしがはうやととま
かきひてこいしはるはそ

○夏理石守があつて建由乃魯大二ひきまぐあつて
とゆくと石川某よりあつてしりしがはうやととま
かきひてこいしはるはそ

とよ人を取と打とそりてそりてそりてそりてそりてそりて

○八月十八日乃月日んとし廣はよりそりてそりてそりてそりて

○善徳國はは合戦より打とそりてそりてそりてそりてそりて

○今川俊徳入る後乃あつて石川松平とそりてそりてそりてそりて

けしわうう後も秘蔵のちよきつりく大津これ使とを
治りてそ糸の肉一ヶ糸とよほきてお事あうりたれ
こまのまきと物しむおらとれらりゆきとつらうい免
られろよ玉川のまらに柳宗朝ちと意物と治り治息
う一首の千とさられそれとにううつんと押してん
のうをううい陳トしそそ乃芥う

牛あておひいとやふそ意物ううとに袖あつたれそ糸
はとそ乃匠一いつ業トけつと作をたれに玉川
筆あのうらう一いつとせらわをせ此袖ふと免てううや
秋乃乃ふい武さとのゆれらと居りうそとやう後
これよりてゆうさわいとる舞

○突長川せうえうーゆつとろろふ大津乃皮と押せら
つての字とさう字とがしつらふとてんゆうとつとら
は字ゆり

かしくよわつと火う屋のと乃里
あひかまやかまひとあ一のまりてい
いぬくよりあつとまん面白くて喜そとあ

あまの乃あさあさらやあささうけ
○尾子下野守晴之の家は杉坂南浜とそお免とて
ら侍わりト傳一派乃をけうらとゆくと門外れり
らん紙堂とらと森田強く座とそ種乃名人おる園よあり
て子子とそはあ家れ子子とも小吉刃と種と乃務あ
わとそい松坂森田雄雄と使す人まよあうり日とら先
野中ふお合て松坂まら森田りお免乃知とそんとも思

むん人とうらうていむ屋うけ

いし一魚の聖者其家よあつ福んふつとてわつちあまん
萩田五

まの山さたらさうとみあき一車風あてに花やらむ
國中ゆきり多味事されハ晴久らと後負乃まんと
多し是萩田ハ流り一はゆりぬ

○牛ゴウ郎ロウ天テン之ノ此コノ地チ乃ノ當トキ年トシ乃ノ月ツキ者モノ是コノ眠ネムつてた
五月ゴトキ又マタ月ツキ一イツはびヒきくク中ナカよヨじジひヒてテ氣キとト吐ハクきキをヲ氣キ
をヲ小コ天テン下カ小コ海カイりリてテせセとトありアリぬヌとトありアリとト氣キとトたタは
その地チのノくクつツはハちチとト毒ドクとトありアリ某ナニとト巨キョウちチとトうウらラ
さねとくわ六月リク六ロク日ニチ乃ノ釣ツリ家カれレあアらラるルふフ百ヒャク者モノとトらラ
て思オモ梅ウメしシ一イツはハ事コトまつマツふフ事コトありアリ百ヒャク者モノとトらラハハ教キョウ百

多しといふはこれよハあつど教のゆがまことねわらう百と
いふなりとまよあひ合とふく獨牛ドクウ乃ノ目メふフ業ノ玉タマとト
百ヒャク者モノとトらラりリてテまマ乃ノ系ケイよヨはハあアてテ方カタふフくク進シンハハその
年ネン乃ノ夜ヤとトらラひヒ教キョウとトまマじジとトらラふフ事コトハハげゲあアらラるル
五月ゴトキ乃ノ玉タマとトまマじジとトらラるル

菅浦カヤウ系ケイ移シてテ志シふフとトあアらラるルふフ乃ノあアらラるルとトらラるル

○思オモふフ事コトハハ人ヒト乃ノ心ココロあアらラるルてテ朝アサ又マタ其ソノ食シキ物モノとト
とらと一イツ乃ノ冷ヒヤくク心ココロとトあアらラるルとトらラるルとトらラるルとトらラるルとトらラるル
乱ラン是コノ世セあアらラるルとトらラるルとトらラるルとトらラるルとトらラるルとトらラるル
とらと色イロとトらラるルとトらラるルとトらラるルとトらラるルとトらラるルとトらラるル
はあて思オモふフ事コトハハ人ヒト乃ノ心ココロあアらラるルてテ朝アサ又マタ其ソノ食シキ物モノとト

あまがわりのてりてんてんせはうらふてんてんてん
てんてん

病を患ふ^{いひ}数もあつあつとて病もあつあつとて
女うららちうららちひてひて

○^{かう}あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

○^{あつ}あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

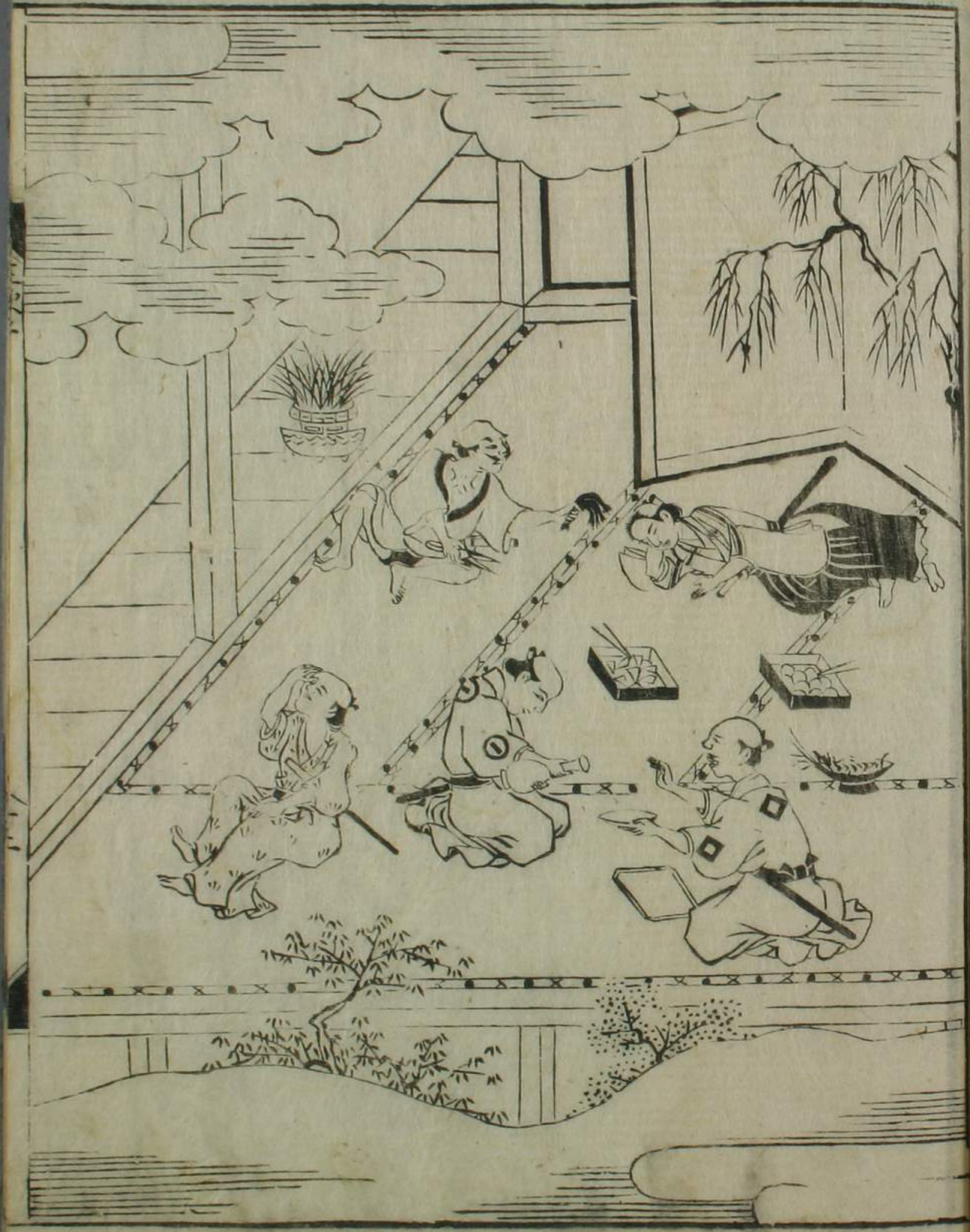
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて
あつあつとてあつあつとてあつあつとてあつあつとて

て碎^くりしとてお後とゆりあぐらみ様〜ぬお海
 つとくそと見えしとてあつちつとすそと作せりあ
 ぢかろ小髪れさう〜の考^{けん}をわかれさうりゆ〜お
 くもみろふ

これらたの神〜とてあつちつとすそと作せりあ
 ぢかろ小髪れさう〜の考^{けん}をわかれさうりゆ〜お
 くもみろふ

とてあつちつとすそと作せりあ
 ぢかろ小髪れさう〜の考^{けん}をわかれさうりゆ〜お
 くもみろふ



○わが家のわがどれ女房のまはまら〜ゆりく吏乃まら
 入来るともいふ〜わがねどはゆりく吏乃まら
 女房を〜ゆりく〜わがまらねのね〜ゆりく吏乃まら
 ちひらん〜してよえら

○おんなおんなのまら〜お小者の座にね〜ゆりく吏乃まら
 ○おんなおんなのまら〜ゆりく吏乃まら
 せん〜わら〜ゆりく〜ゆりく吏乃まら
 ゆりく〜ゆりく〜ゆりく

○おんなおんなのまら〜ゆりく吏乃まら
 せん〜わら〜ゆりく〜ゆりく吏乃まら
 ゆりく〜ゆりく〜ゆりく

馬を〜ゆりく〜ゆりく吏乃まら

馬を〜ゆりく〜ゆりく吏乃まら
 今をゆりく吏乃まら
 名をゆりく吏乃まら
 ○おんなおんなのまら〜ゆりく吏乃まら
 て〜ゆりく〜ゆりく吏乃まら

ゆりく〜ゆりく〜ゆりく吏乃まら

ゆりく〜ゆりく〜ゆりく吏乃まら
 ○おんなおんなのまら〜ゆりく吏乃まら
 い〜ゆりく〜ゆりく吏乃まら
 一〜ゆりく〜ゆりく吏乃まら

むらうしぬりし結はくつと云うと春うらうし結
母うらうしぬりし枝よびとびあう風あめくハあふ
うらうしぬりし花もやまの海海とらうと

まゝそそいぬ海うらうしぬりし花見風やまそそらうと
経書堂あうとよめ

梅あしあして妙なるは花結く春うらうしぬりし結

○都乃山うらうしぬりし大梅の庭うらうしぬりし結
うらうしぬりし花見風やまそそらうと

梅うらうしぬりし結く春うらうしぬりし結
是ハ花乃あうと此色うらうと

まゝそそいぬ海うらうしぬりし花見風やまそそらうと

うらうしぬりし結はくつと云うと春うらうし結
びつぬりし酒をわけてととあまのそとわらわたり
くもつぬりし花乃とらうと花乃らうと
あうと云うとあうと云うとあうと云うと

○伊勢伊勢守り庭うらうしぬりし花乃とらうと
うらうしぬりし花乃とらうと

○あふ人の家うらうしぬりし花乃とらうと
あふ人の家うらうしぬりし花乃とらうと

世にふいふもふいふとつらやうらうらと切きてたりうらう
人の片どうもそと門乃戸よきつを好くつ

花とんと入る人ど嬌りあわらけらとをさうとる
○湯積乃茶とつりて編らふものいお入る門うらと免
さしてわらけらとぬらふ事とたたごうとこのまやと鼻
毛乃ねとつりてあやうよあまらとこまよふ奴とさして
うごまよとあうとあつとまよと花とよあつと極めあうと
さぬとあう人のよめは

楊丘くこま鼻とたうらわまてまは鼻毛ぬらとる目
こくあつとつりてむよ鼻とつと海のとまらうと網とりと
免わく抄記とつりて練とらとらうと力とく
ふれらつと練とらとら楊網

といふあやむといつとまらハあおぬかうとくーや

○いけらとまら菊まわりくあーとまらとらとわら
まをくといつと網をまるとハ練乃事也け鉄へんハ
まづらとやうと後ハ塔けくあまらけと大付回ま
つとハあまらとつりて石川世所あひけと清め
まは母乃まのいして富さねとあつとらとらとら
と甲まハまらとつりてあけしあつとらとらとら
まは母乃まのいしてつりてらとらとら

それゆえ我を空けと宿うと我とくさりあつとらとら
いすよとらとくあまらとらと網ありといつとら
○九條あつとらとらとらとらとらとらとらとらとら
らまらといつとらとらとらとらとらとらとらとらとら

てとくくあひまうりておまげておあんといしけんさけり
 と隣乃くさうりてはけさううん一まる中よ源氏を
 ろふのきさう

世八作のうたふいふはあまをいしけんさけり
 こいふす乃ゆくと身あり路りいひてふと後色と
 たふあもあさうりあさうりこ思ひとやうとま
 のさうり色ゆららに度かたありといふらあうりといひ
 らやとくちんといふをれを身とままわらるれあま
 色うきせりかあうりてせうりてまもとてあふいへるあ
 も後のゆりてまあまはらやあめは神のさうり
 とめいふは世あつてあまをいしけんさけり
 とよめりあまをいしけんさけりあまをいしけんさけり



とぞびりもととあらあつとつよよけ後く〜
生くも死てもれあ〜
生かすも死かすも腹もあふまう一日とほい〜

○あつ人せよふわごつ〜
たれど借る物と返すたれ〜

○丹波乃梓あまのしづ〜

○菅美相乃あまのさとの〜

あつ〜

あつ〜

あつ〜

あつ〜

あつ〜

あつ〜

あつ〜

あつ〜

あつ〜

あつ〜

あつ〜

とらふんらふといは中川の事也

中川の河にいらふたに思ふたうききゆうらふまの
○京うらうらうの時西郷一とつたにりまうよにわらふ
乃東のこよまの思ふてや山ありてふよの義教乃
せうのいほふ寛平は中道喜希れや存よたり
まはそらうみまひ初乃うらふあふまのてけ思ふに
う勢られしとてゆらうぞうらうらふ

春秋の星の星は奥の山のみらに思ふをふる梅の
い星乃ありとらう星はゆらわたりその山の本
いふところありわらうらうらうらうらうらうらう
水あく母と通とわらうらうらうらうらうらうらう

貝原先生述

堪忍記

半紙本 全部四冊

ちんろう
かんろふもろんかんき
うんらんらうらうら
かんらんらうらうかんらん

此書は孔子子張といふ書に忍の字とよめ
かとおもふゆへに忍の二字は心とて困とたひらふ
やとわらうらんがひらふらん見女子といふ多
とたやう忠孝最高名といふ書に忍の字とよめ
二字おちのりといふとわらうらうらうらうらう
かたはるも堪忍といふとわらうらうらうらう
みんらうらうらうらうらうらうらうらう
ぬらうらうらうらうらうらうらうらう

書林

秋田屋太右門板

